

## 今週の為替相場見通し(2016年5月2日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		106.27 ~ 111.90	106.45	104.00 ~ 108.00
ユーロ	(ドル)		1.1216 ~ 1.1460	1.1455	1.1200 ~ 1.1600
(1ユーロ=)	(円)		121.67 ~ 126.45	121.84	120.00 ~ 126.00
英ポンド	(ドル)		1.4403 ~ 1.4672	1.4608	1.4450 ~ 1.4850
(1英ポンド=)	(円)	*	155.28 ~ 162.82	155.60	153.00 ~ 158.00
豪ドル	(ドル)		0.7548 ~ 0.7765	0.7603	0.7450 ~ 0.7700
(1豪ドル=)	(円)	*	80.82 ~ 86.31	80.97	79.00 ~ 82.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、\*印の項目はブルームバーグ。

## 1. 米ドル

為替営業第二チーム 森谷 友一

(1)今週の予想レンジ: 104.00 ~ 108.00 円

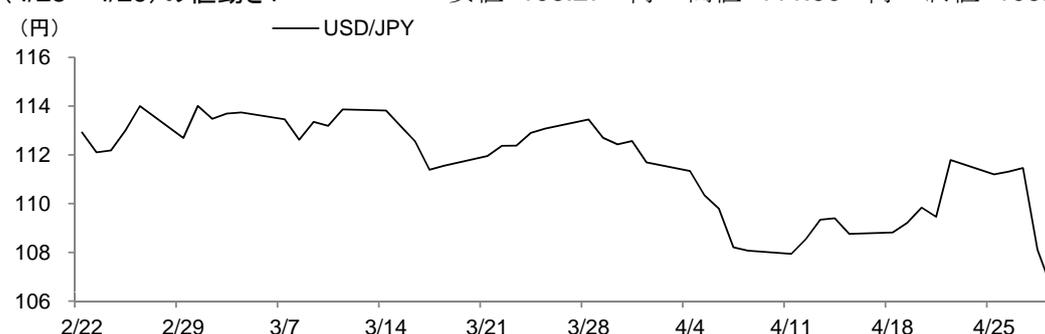
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は週後半に大きく下落した。25日に111円台半ばでオープンすると前週末の円売り地合いを引継ぎ一時週高値となる111.90円まで上昇。その後は110円台後半から111円台で推移。26日は日経平均株価の下落や本邦輸出企業の円転フローを背景に110円台後半まで下落するも、翌日のFOMCを前にしたポジション調整などからドル買いが強まると111円台半ばまで上昇した。27日のFOMCでは市場予想通り金融政策は現状維持となり一旦は111円台前半まで弱含む。しかし、声明文において海外経済への警戒感が幾分後退したことを示唆する文言が見られたことから、ドル買いが強まり、111円台後半まで上昇する局面もあった。28日は日銀金融政策決定会合で現状維持が決定されると急速に円買いが進み108円台半ばまで急落。その後、欧州勢が参入する一段と円買いが強まり107円台後半まで下落した。米1~3月期GDP(1次速報)は市場予想を下回った一方、米1~3月期コアPCEは市場予想を上回ったためドル/円は一時108円台後半まで上昇したが、米株が下げ幅を拡大すると再び107円台後半まで戻された。29日は東京市場が休場となる中、前日の流れを引き継ぎ年初来最安値を更新して下落。弱い米経済指標の結果などを受けてドル売りが強まり一時週安値となる106.27円まで下落した後、106.45円で越週した。

今週のドル/円相場は軟調推移を予想する。先週の日銀金融政策決定会合では金融政策の現状維持が決定されたが、事前に追加緩和予想が高まっていただけに発表後は急速に円買いが進んだ。今週は3~5日が東京休場となり流動性の薄くなる中で、投機筋を中心とした円買いにより一段と円高が進行する動きに警戒したい。また、米財務省が29日に公表した半期為替報告書で日本が初めて監視リストの対象に指定されており、円売り介入が難しくなったとの見方も円買いの材料として意識されそうだ。米国では6日(金)に米4月雇用統計が発表される。しかし、先週のFOMC声明文の内容は早期利上げを意識させる内容ではなく、「世界経済及び金融情勢を注意深く観察する」としていたことを踏まえると仮に良好な結果となってももはや単月の雇用統計の結果で早期利上げ期待が高まるとは考えづらく、むしろネガティブサプライズに警戒したいところだ。先週末の麻生財務相による円売り介入を示唆するような発言の影響は精査する必要があり、また週半ばが東京休場となる中、思わぬニュースヘッドラインを受けたプライスアクションなどには注意が必要だが、基本的には軟調推移を予想する。

(3)先週までの相場の推移

先週(4/25~4/29)の値動き: 安値 106.27 円 高値 111.90 円 終値 106.45 円



(資料)ブルームバーグ

## 2. ユーロ

(1) 今週の予想レンジ: 1.1200 ~ 1.1600      120.00 ~ 126.00 円

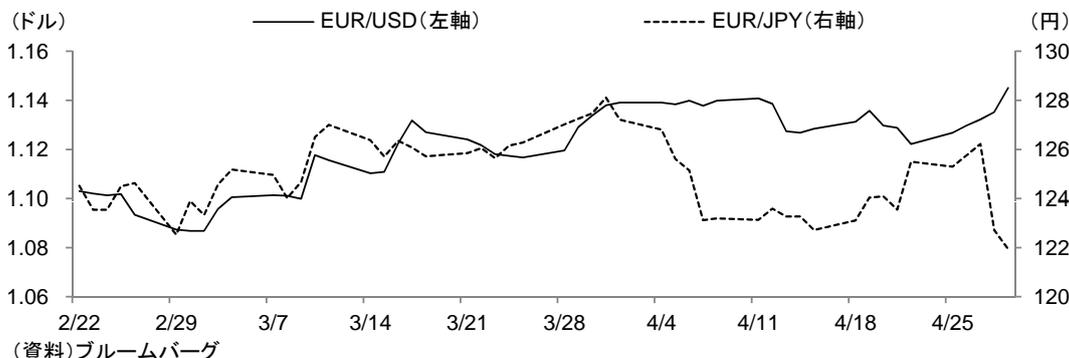
### (2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ相場は対ドルで上昇する展開。週初25日、対ドル1.12台前半、対円125円台半ばでオープンしたユーロは、一時対ドル週安値となる1.1216をつけたが、米金利低下や米3月新築住宅販売の弱い結果などを嫌気したドル売りを背景に、1.12台後半まで上昇した。翌26日は、米3月耐久財受注の市場予想を下回る結果を受けたドル売りに、ユーロは対ドル1.13台前半、対円126円台前半まで値を上げるも、その後は翌日にFOMCを控え調整が入る中、米金利上昇も相俟って、対ドル1.12台後半まで下落した。週央27日は、FOMCを前に調整のドル売りが強まると、ユーロは対ドル1.13台前半まで上昇したが、FOMCの結果を受けて米金利が一旦上昇する動きにドル買いが強まり、1.12台後半まで急落。しかし、米金利が低下に転じると再びドル売り地合いになり、ユーロは1.13台後半まで上昇した。28日にかけては、ユーロが1.13台半ばを中心に揉み合いの展開となる中、日銀に対する追加緩和期待が高まるとドル/円が111円台後半まで急伸し、ユーロは対円週高値126.45円まで上昇した。その後、日銀が金融政策決定会合で政策の現状維持を決定するとドル/円が急落、ユーロは対円で122円台後半まで下落した。その後、冴えない米1~3月期GDP(1次速報)を背景にユーロがサポートされると対ドル1.13台後半で推移した。週末29日は、ユーロ圏1~3月期GDP(速報値)が堅調な伸びを示したことや軟調な米4月ミシガン大学消費者信頼感指数などから独債利回りが上昇すると、ユーロ買いが強まり対ドル週高値1.1460まで値を上げた。またユーロ/円については、ドル/円が106円台前半まで急落する中、週安値121.67円まで下落。結局対ドル1.14台後半、対円121円台後半で越週している。

今週のユーロは週末にイベントを控え神経質な相場展開を予想する。足許、米利上げ観測に対する後退からドル売りが進行しユーロは底堅く推移している。先週はプラートECB専務理事から、ECBの追加利下げにはインフレ見通しの大幅悪化を確認する必要がある、また、そうした状況に近い将来現実になるとは予想していないとのコメントが報じられた。また、ノボトニー・オーストリア中銀総裁からもECBの金融政策の効果が年後半に現れることを期待しているとの発言があり、当面はECBによる追加緩和シナリオは描き難い状況だ。前回4月のECB理事会でも金融政策の現状維持が決定されており、足許はマイナス金利の効果を見極める時期と位置付けている模様である。斯かる状況を勘案すると、ユーロはFRBによる利上げ観測に応じて上下する展開が予想される。先週実施されたFOMCでは早期利上げに可能性を残す一方、引き締めは急がない方針が示された。年内の利上げは多くても2回に留まる公算が強まっており、世界経済の不透明感や軟調な米企業業績を考慮すれば、ユーロは堅調になり易いかも知れない。米金融政策を占う意味では6日(金)の米4月雇用統計は注目であろう。材料としては時間当たり賃金上昇率や非農業部門雇用者数が挙げられ、予想外に良好な内容が確認された際にはドルが買い戻されユーロは利益確定から売り優勢となり下落するであろう。ユーロ圏の経済指標としては、2日(月)にユーロ圏4月製造業景気指数、4日(水)にユーロ圏3月小売売上高がある。

### (3) 先週末までの相場の推移

先週(4/25~4/29)の値動き: (対ドル) 安値 1.1216      高値 1.1460      終値 1.1455  
(対円) 安値 121.67      高値 126.45      終値 121.84



### 3. 英ポンド

(1) 今週の予想レンジ: 1.4450 ~ 1.4850 153.00 ~ 158.00 円

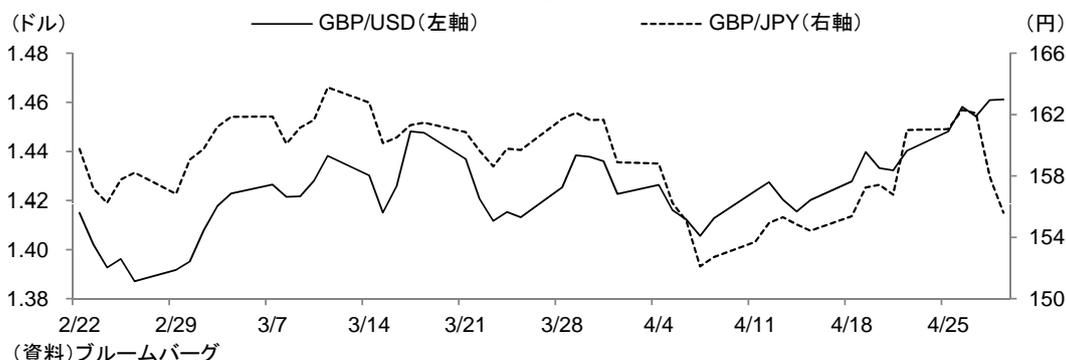
#### (2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、対ドルで上昇した一方、対円では下値を切り下げた(対ユーロは狭いレンジ内で推移)。対ドルにおいては、22日(金)に訪英したオバマ米大統領が「英国がEUを離脱したら米国と新たに自由貿易を結ぶのに10年かかるかもしれない。順番の一番後ろに並ばなければならないからだ。」や「EUは英国を強くしている。英国はEUの中でリーダーシップを発揮してほしい。」などと発言し、英国のEU離脱による悪影響に対して警鐘を鳴らすとともに残留を支持。これを受け、英国内でEU残留の機運が高まり(ブックメーカーの残留予想確率が上昇)、週初(25日(月))からポンドは上昇してスタート。26日(火)には米3月耐久財受注、製造業受注が予想を大きく下回りドルが下落したことを背景に、ポンド/ドルは2月初以来の水準まで買い進まれた。その後も、27日(水)に発表された英1~3月期GDP速報値の前年比(+2.1%)が市場予想(+2.0%)を上回ったことや、同日の米連銀公開市場委員会が大きく相場を動かす材料とはならなかったため、ポンド/ドルは底堅く推移した。対円でも22日(金)以降、追加緩和への期待から週央までは買い優勢の展開、27日(水)には約2か月ぶりの水準となる162.81円まで上昇した。しかし、28日(木)の日金融政策決定会合で市場の目論見に反し追加緩和が実施されず、政策の現状維持が決定されると、期待が一気に剥落し円買いが加速。ドル円は日本銀行への期待折込が進んだ緩和観測報道(22日(金))以前の水準に下落し、ポンド円も156円割れまで売り込まれた。

今週の英ポンド相場は、底堅い展開を見込む。要因は2つ、1つはポンド相場のメインテーマである「EU離脱/残留を問う国民投票」に対する見通しにおいて、やや残留派優位との見方が強まりつつあること。これは、22日(金)のオバマ米大統領訪英時の残留支持発言が影響しているものと考えられる。2つ目は、来週12日(木)に英中銀金融委員会、同議事録、四半期インフレ報告の発表が予定されていること。前述重要イベントが近づくことで、2月以降の商品価格の回復、特に原油相場の上昇を背景としたインフレ持ち直しの可能性に市場の目が向き、年内利上げ観測がくすぶることことも考えておく必要がある。以上から、暫くはポンドを買いやすい地合になると考える。ただし、日本銀行への期待が剥落した対円相場の影響については注意が必要。日本がゴールデン・ウィークで休暇の間にドル円が短期的にでも下押しするような場合には、ドル円の動向がポンド円の上値を押さえる可能性は否定できない。今週の英経済指標は3日(火)に4月Markit製造業PMI、5日(木)に同サービス業PMIおよび4月ハリファックス住宅価格が予定されているが、よほど大きなサプライズとなる数字でない限り、市場への影響は限られるだろう。尚、5日(木)にはロンドン市長選挙、スコットランド議会選挙、北アイルランド議会選挙が予定されている(ロンドン議会選挙はボリス・ジョンソン現市長が3選目には出馬しないことが決まっており、労働党と保守党の立候補者に対する支持が拮抗している状況)。いずれの選挙も市場への影響は現在のところ見込まれていない。

#### (3) 先週末までの相場の推移

先週(4/25~4/29)の値動き: (対ドル) 安値 1.4403 高値 1.4672 終値 1.4608  
(対円) 安値 155.28 高値 162.82 終値 155.60



#### 4. 豪ドル

(1) 今週の予想レンジ: 0.7450 ~ 0.7700 79.00 ~ 82.00 円

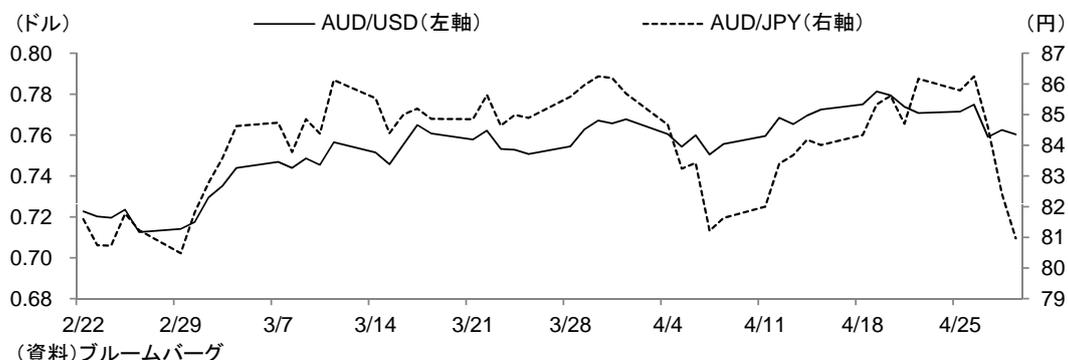
##### (2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は軟調な展開となった。週初25日、対ドルで0.77台前半、対円で86円台前半にてオープン。この日は豪州市場が休場であったことから動意に欠き、同水準でレンジ推移。翌26日、発表された米3月耐久財受注が前月比+0.8%と予想(同+1.9%)を下回ったことでドル売りが優勢となると、豪ドルは対ドルで0.7765の週高値まで上昇。対円も86.31円の週高値まで連れ高となった。しかし週央27日、発表された豪1~3月期消費者物価指数(CPI)が前期比▲0.2%と予想外のマイナスとなったことで、対ドルで0.76台半ばまで、対円でも84円台前半まで豪ドルは急落。更に海外時間に発表されたFOMC声明文からは6月会合での利上げの可能性を残す形となっており、一時的にドル買いが入ると豪ドルは0.7548の週安値をつけた。翌28日、日銀金融政策決定会合で現状維持が決定されてドル円が急落する展開に、豪ドルは対円で82円台半ばまで連れ安となった。一方対ドルでは0.76台こそ回復したものの影響は限定的となった。週末29日、対ドルでは0.76台を中心としたレンジ推移が継続。一方、対円ではドル円が一段と下値を探る展開が続き、豪ドル/円は週安値80.82円をつけた。結局、豪ドルは対ドルで0.76近辺、対円で81円近辺にて越週した。

今週の豪ドル相場は上値の重い展開を予想する。今週は、3日(火)に豪州準備銀行(RBA)理事会が開催される。前回のRBA声明文では「低インフレが継続し、かつ需要を喚起する上で適切と判断されれば、追加緩和の可能性はある」としており、先週の予想外のマイナスとなった豪1~3月期CPIの結果を踏まえ、RBAが追加緩和を実施する可能性は十分にある。現時点での金利先物市場における利下げ折り込みは拡大しているとはいえ60%弱であり、実際に利下げに踏み切れば豪ドルは一段と下押しされるだろう。また、週末に麻生財務相から市場介入を示唆する発言が報じられているものの、実際に介入が実施されるとしても円高進行のスピードが速すぎたことに対するスムーズオペレーションになるのではないかと考える。したがって、ドル円相場を切り上げるとは想定しがたく、利下げ観測が強まっている豪ドルが対円でも大きく上昇していくとは考えにくい。今週は対ドル、対円ともに豪ドルの上値が重い展開になりそうだ。その他のイベントは、3日(火)に豪3月貿易収支・小売売上高、6日(金)にRBA金融政策報告書、米4月雇用統計の発表が予定されている。

##### (3) 先週までの相場の推移

先週(4/25~4/29)の値動き: (対ドル) 安値 0.7548 高値 0.7765 終値 0.7603  
(対円) 安値 80.82 高値 86.31 終値 80.97



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。